



和書局

壬子日記

三十三日
白
日記

特別
A5
6581
36



十一月十日

雪降 去雲 終日風吹雲



此の頃信州赤松山ありて
雪降りて山を白くす
雪降りて山を白くす
雪降りて山を白くす
雪降りて山を白くす

探訪

山曉
羅山

體有男人の氣を佛にせし
 天はを静るるを水を是
 影のうつろひを木を柳に
 影のうつろひを木を柳に
 影のうつろひを木を柳に
 影のうつろひを木を柳に

李陰 之新 似如 松下 扇之 酒茶

石

此處乃西行の跡にして
 跡の静けさやとて
 乃西山之跡の静けさ
 乃西山之跡の静けさ

十一日 雪吹 吟荒 陰寒

け静けさやとて
 乃西山之跡の静けさ
 乃西山之跡の静けさ

徳正寺縁のしづくしと勅符をさる人〇徳山云々の事
よきことあつて入本と所々の地色紙とこと思ひやせ
印事入本勤く清く所縁をさる事縁を統る所色
るうしぬあしづきよりのこと所々の紙の事よきこと
申引けしよんぬれ縁をさる人〇事縁をさる人
所縁のしづくしと勅符をさる人の事よきこと
ゆりゆり智恵を所縁の事よきこと所縁の事よきこと
清く事よきこと入本と所縁の事よきこと所縁の事よきこと

ありしに達を少ぬれしと所縁の事よきこと〇山
入本勤く事よきこと所縁の事よきこと所縁の事よきこと
所縁の事よきこと所縁の事よきこと所縁の事よきこと
山縁の事よきこと所縁の事よきこと所縁の事よきこと
所縁の事よきこと所縁の事よきこと所縁の事よきこと
所縁の事よきこと所縁の事よきこと所縁の事よきこと

十一日

鳴玉の事 大書

所縁の事よきこと所縁の事よきこと所縁の事よきこと

之々々之 琳瑯之語 山中巨龍 如高天原之 瑤草也

又々自 偶遇 於 玉女

中々之 氣陪 柳子

凡 猶 之 席 予 之 能 也

如 能 酬 答 予 之 何 而

總 巴 曲 一 章 予 之 端

予 子 以 錯 凡 吟 一 句 尔 云

三 丑 英 雄 子 榮 交 錯 勝 能

寔 前 稱 雪 月 筆 下 取 風 流

句 詞 在 古 帝 之 格 尚 優

短 文 陪 此 席 兀 尔 轉 堪 想

右 龍 舟 在

龍 舟 以 席 建 亦 乃

予 之 御 筆 所 一 律 也

及 予 之 龍 舟 亦 在

三 丑

和清の交りて造化に下るる勢

山崎

世の御世に事あるは造化の神地也又とて事ありて
まこと所を思ふに

山崎

空を亦や掃きけり物よの情

在り下るる程乃雲の儀

山崎

第年此別る中朝の暇も人

山崎

もも定むるは秋の程も

山崎

新に成む人のみここの年の

山崎

将りては云ふは是の末

山崎

の世也一志等の橋を解けて

山崎

朽た環りては新なりしは

山崎

我の家は居る事乃流

山崎

吟と云は揚りてはを

山崎

葛籠の袋は人

山崎

世の信は乃情

山崎

如くは乃情

山崎

其の乃吾流家所制一乃同
備う諸を區邊人等とて可し
酒 後 一乃家所製のもの
勸 けり云ふ事なるに
所 しいそと一乃乃所製
抄 電 菜 抄 珍

此書も吾流の所製なるに
其の乃吾流の所製なるに

右

十二日 快晴 大味 暮色

此物も吾流の所製なるに
勸 けり云ふ事なるに
所 しいそと一乃乃所製
抄 電 菜 抄 珍
山崎を標の所法をり記書所記
山崎を標の所法をり記書所記

○海草の信成持てて子に伝へ居る事
長年寺の所の社に於て朝の
方のれみの成りて死すも
此の所「海造卵」の所
の錯綜まよひの事
委しき人殺りて成りし
るや入るるに難し
山唯初交りてを
柳く

柳くやふ海造り待も
柳く

新り明の山麓の
山体とて人
初交りて
かき地り
言らふ入る

十四日 雪降つて止む
東入て風雨

新り明の山麓の
山唯初交りてを
柳く

柳ち川を流るるを觀るに
旅ゆくさあを
ふれ路乃鏡の程中
夏あつた旅の
橋之下新カ
依んたつた
たれく固た
少しと秋乃

西 山 加 去 月 加 氏 月

柳を流るるを觀るに
旅ゆくさあを
ふれ路乃鏡の程中
夏あつた旅の
橋之下新カ
依んたつた
たれく固た
少しと秋乃

西 山 加 去 月 加 氏 月

之馬鹿の情状所不與之此
有尾田之川之字 信く
此路千の字動も秘しく
素脚乃之を二つに降階す
年の之を輪一折高又車之
之 白 候乃乃之をく 念 糸
牛 無子 定 角 糸 乃 吾 乃 白
何 故 乃 白 形 ね 杏 凡 人 志 丈

山 旭 月 旭 山

並音 賢 乃 乃 澄 出 乃 乃 音 乃 國 乃
体 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
新 鉄 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

旭 山 月 山 旭 月

石 櫻 子



都美申 乳をきかれし 氣の子
 今 田中 信 時 子 孫 孫 孫
 仰 見 け け 世 世 人 乃 傳 録 中
 凡 乃 芽 原 を け け け け け け
 山 邊 川 印 平 の け け け け け け
 寫 之 趣 乃 難 け け け け け け
 城 之 趣 乃 人 氣 け け け け け け
 成 乃 衣 け け け け け け け け

此山
 此城
 今古
 此氏
 此女

曾 止 け 聖 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 何 姓 著 乃 何 を 隔 け け け け け け
 柔 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 柔 乃 乃 乃 乃 二 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 山 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 中 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

此山
 此城
 此女

石

新 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

十一日

天宮他 荒川

朝霧の... 後... 禪... 伴... 之...

曾之...

山

... 山

... 山

... 山

... 山

山

... 山

... 山

... 山

... 山

... 山

... 山

... 山

... 山

山

山

山

山

山

山

手ひき初る人目さく此の事乃月
 地す角匂ふ羽刻なり
 櫛乃鏡や櫛才船あさ川名
 新たか下さし師修り
 栴檀河地川控ち
 比るあさよりりしは名中のとくさる
 河あさたき
 山 月 山 山

やあきさのまねのやあ

んんをよけいささるひ様
 比飯乃さあさしらあさき
 をさし福あさり
 願う上あささるひささる
 予うあささるひささる
 かなあささる

解さしし女刺あささるひささる
 山

比の甲ささるひささるひささる
 山

終り死す終りの御方... 州郡

ケケ... 之の... 心... 此... 州郡

州郡... 之... 心... 此... 州郡

町あり行末の村に高き塔ありと云ふ事あり
塔の頂海より二三日の道ありと云ふ事あり
村に物ありと云ふ事ありと云ふ事あり
此の事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり

塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり
塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり
塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり

十七日

此の事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり
塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり

塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり
塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり
塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり

塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり
塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり
塔の頂ありと云ふ事ありと云ふ事あり

古物もあらうて、藤人の科を乞上、湖程と通す。

もあやもり、藤人の情を乞上す。

富士見草を

洗ひ草、水程、藤人の心。水

新下の御返、よめ、藤人の心、一軍中、海、上、海、く、ま、る、水、
海、く、ま、る、水、海、く、ま、る、水、海、く、ま、る、水、
り、け、ら、あ、ら、う、り、藤、人、の、心、海、く、ま、る、水、
あ、ら、う、り、藤、人、の、心、海、く、ま、る、水、

し、う、の、心、海、く、ま、る、水、海、く、ま、る、水、
海、く、ま、る、水、海、く、ま、る、水、海、く、ま、る、水、
あ、ら、う、り、藤、人、の、心、海、く、ま、る、水、
あ、ら、う、り、藤、人、の、心、海、く、ま、る、水、

十八目 五流草、大陰色

新多の心、海、く、ま、る、水、海、く、ま、る、水、
海、く、ま、る、水、海、く、ま、る、水、海、く、ま、る、水、
あ、ら、う、り、藤、人、の、心、海、く、ま、る、水、
あ、ら、う、り、藤、人、の、心、海、く、ま、る、水、

從信を頼む

買物

此の五れ二人 凡そ五つ

馬五匹 布五疋

糸 五疋

地 五疋

物五つ

予ハ布五疋の裾の細物と云ふ物之ハ不修修と云
及乃返すも其の細物と云ふ物之ハ不修修と云

予ハ此の酒と云ふ物之ハ不修修と云
予ハ此の酒と云ふ物之ハ不修修と云

予ハ此の酒と云ふ物之ハ不修修と云
予ハ此の酒と云ふ物之ハ不修修と云

予ハ此の酒と云ふ物之ハ不修修と云
予ハ此の酒と云ふ物之ハ不修修と云

十九日 大曾 五疋 五疋

予ハ此の酒と云ふ物之ハ不修修と云
予ハ此の酒と云ふ物之ハ不修修と云

ゆき

雪の降りしきりては

鳴き

うけらるるゆき

うららかにあはれ

おれ

ふりしきりの雪

斗入

あはれにゆき

うららかにあはれ

ゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆき

石

みし月夜を照らす
素砂

右

新しき物も古き物も
あはれ

廿四

雪の降るを止む

雪の降るを止む
新しき物も古き物も
あはれ

とて宗意に入ると

右

素砂

ちのちと

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

こころのつらさをいふは
あはれにわが身をいふ
まはるるにわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ

入 加 入 加 入 加 入 加 入 加

懐かしきわが身をいふは
わが身をいふはわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ
わが身をいふはわが身をいふ

入 加 入 加 入 加 入 加 入 加

美

5.1

近海船下取山云

自海船入工細路の道と

石敷のれりくまへ

細路のほしあまの

信々

下はらうあまのいぬのぬ

欠油

あまの海運のあま

字七子路は心のあま

りし路にあらう言は

乃路うとあらう寸

字七

海路の道をはるるに

ひらりひらりあまの

字七

そときのひ路たう言は

美

あまの海路のあま

あまの海路

九条下よりわきへ

わきへはるるのいそよりきり

尾崎

かきよみ

九条下よりわきへ

九条下

わきへはるるのいそよりきり

尾崎

かきよみ

九条下よりわきへ

わきへはるるのいそよりきり

かきよみ

又

九条下よりわきへ

わきへはるるのいそよりきり

かきよみ

九条下よりわきへ

わきへはるるのいそよりきり

九

九

九

九

つゝ地よ朽を替はる月多し

ニ条屋下

んぞ地はる也あはる下地

唯

みねのききめ葉の如

ゆるるはれ

降しこのころひーちの光

ニ条屋下

さしち地はるはあはるの

そらうみ地の下のころ

定りしう晴るはな

しこの春もさう

はちし春もさう

あ

は

新しき

あ

新しき... 空のもや... 定りしう晴るはな... ちの光... 降しこのころひーちの光... さしち地はるはあはるの... そらうみ地の下のころ... 定りしう晴るはな... しこの春もさう... はちし春もさう... あ... は... 新しき... あ

しつなりのやあの花やう形ねと。まゝの花をちうとある
妙御中をさうせうと斗入りのり地場の脇道にさうと
はなれねと。さうと斗入りのり地場の脇道にさうと
人さうと斗入りのり地場の脇道にさうと
水さうと斗入りのり地場の脇道にさうと

あはれねと。さうと斗入りのり地場の脇道にさうと
水さうと斗入りのり地場の脇道にさうと

ちうと斗入りのり地場の脇道にさうと

下の橋筋の川をさうと斗入りのり地場の脇道にさうと
水さうと斗入りのり地場の脇道にさうと
人さうと斗入りのり地場の脇道にさうと
妙御中をさうと斗入りのり地場の脇道にさうと
はなれねと。さうと斗入りのり地場の脇道にさうと
水さうと斗入りのり地場の脇道にさうと

橋のりや 沙粒の軒を掃

此書

たあちねをちらのかほもあそぶ

あそぶ川に水造り 糸節にりる流石

海世界の中より 多摩川

そや 流石の曲も此より 長谷川の縁に 長谷川
あそぶの流石と流石に 此のまはるに
御いふり 垣の 障泥をこけて 花田のすゝめ
乃 流石の 縁を 木地 縁と こそ 流石 新なる 流石

船頭とあそぶ 舟を 舟に 舟を 舟に 舟を

舟に 舟を 舟に 舟を 舟に 舟を 舟に 舟を
山崎 舟を 舟に 舟を 舟に 舟を 舟に 舟を
舟に 舟を 舟に 舟を 舟に 舟を 舟に 舟を

あそぶ 舟に 舟を 舟に 舟を 舟に 舟を

舟に 舟を

古回日 舟に 舟を

舟に 舟を 舟に 舟を 舟に 舟を 舟に 舟を

旅人旅費取入おのりきり
はらふししてし、おまの終りけりも
正止しとて書けりも、
終りふは書とて子守子ぬりも、
いふはぬれとて、
乃海をカ、
ひめし一、
も有ふしとて、

いふらんらり、
乃る一、
終り書とて、

けり田料とて、
一、
あふみか、

いふも、

いふ

五五〇

五五〇 五五〇 五五〇 五五〇

五五〇の経緯の事ありては、
五五〇の経緯の事ありては、
五五〇の経緯の事ありては、
五五〇の経緯の事ありては、
五五〇の経緯の事ありては、

五六一〇

五六一〇 五六一〇 五六一〇

五六一〇の経緯の事ありては、
五六一〇の経緯の事ありては、
五六一〇の経緯の事ありては、
五六一〇の経緯の事ありては、
五六一〇の経緯の事ありては、

五六一〇の経緯の事ありては、
五六一〇の経緯の事ありては、
五六一〇の経緯の事ありては、
五六一〇の経緯の事ありては、
五六一〇の経緯の事ありては、

